

交流や連携の推進を

全国国公立幼稚園長会

双方の「初めの一步」から

これまで、幼児教育から小学校低学年の教育への滑らかな接続は大きな課題でした。中央教育審議会では、義務教育に接続するものとしての幼児教育について、初等中等教育分科会に幼児教育部会を設置し審議してきました。平成17年1月には、「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」として答申が出されました。

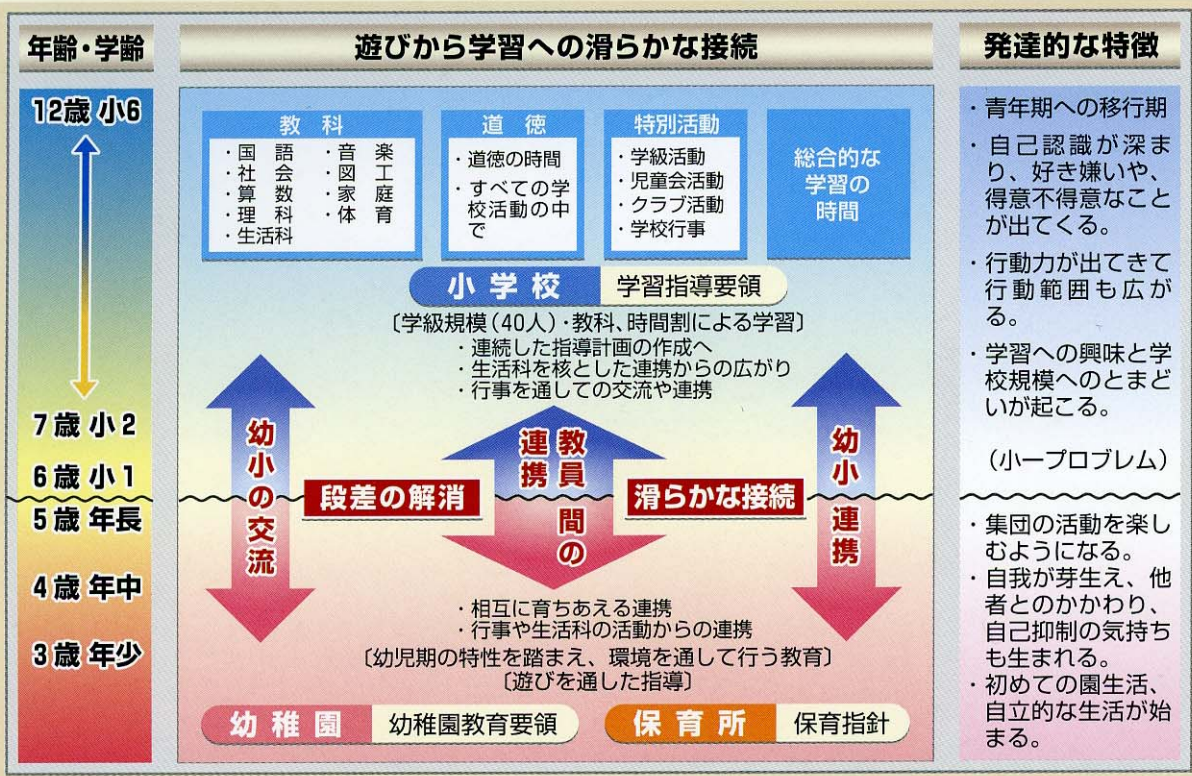
その答申の中で、小学校教育との連携・接続の強化・改善が提言されています。「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行を目指し、幼稚園等施設と小学校との連携を強化する。特に、子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から、連携・接続を通じた幼児教育と小学校教育双方の質の向上を図る。具体的には、幼児教育における教育内容、指導方法等の改善等を通じて生きる力の基礎となる幼児教育の成果を小学校教育に効果的に取り入れる。」とあります。

幼小連携の掛け声はよく聞かれますが、実績を伴った幼小連携は推進されてきませんでした。しかし、生活科の誕生は、幼稚園と小学校の段差を少しずつ解消してきました。

幼児期は、遊びや人とのかかわりを通して、自発性や自主性、そして、様々な小学校への学習への芽を育てることが大切です。これらの力を小学校と連携して育てていくことが重要と考えています。

今こそ、答申にある「子どもの発達や学びの連続性」という観点からも、幼小の連携を更に推進すべき時と考えます。そのためには、まず一歩を踏み出してみることが大切です。小学校側からは、近くの公立や私立の幼稚園や保育所との交流から始めませんか。幼稚園や保育所側からは近くの小学校に声掛けをしたいと考えます。

初めは、行事への招待や参加からのスタート、そして、すでに生活科等での交流の実践が始まっている地域では、生活科を核にしてさらに小学校の教育活動全体への連携・接続へと発展していくことが望まれます。日本全国で、幼稚園や保育所と小学校の連携が進めば、様々な課題が解決できるものと考えます。まずは、「初めの一步」から交流や連携を推進していきましょう。



今なぜ幼小連携か

白梅学園短期大学 学長 無藤 隆

幼児教育の成果をどのようにして小学校教育に伝え、生かしていったらよいのでしょうか。そのためには、子ども同士が交流し互いに刺激し合えること、教師同士が交流し互いの教育のあり方について相互理解を進めること、幼稚園と小学校をつなぐ教育課程の筋道を作ること

などが必要です。幼稚園と小学校の間には、これまで、子どもの間の日頃の付き合いにも、教師の互いの指導法への理解にも、カリキュラムにも断絶がありました。そうではなく、小学校は幼児教育の中で育ててきた子どもの力をさらに伸ばすのですし、幼稚園は小学校以降への発展の基盤の形成を意識するのです。幼児期の自己と人間関係の育ち、学びの芽生え、協力的な学習活動等をさらに小学校で発展させてほしいものです。